

平成 30 年度 愛知学泉短期大学シラバス

科目番号	科目名	担当者名	基礎・専門別	単位数	選択・必修別	開講年次・時期
52504	保育実習 I Childcare Internship I	岡田 真智子 児玉 珠美	専門	2	選択	1 年後半
科目の概要						
この科目では、現場での実習を通して、保育所の役割・子ども達の動きの実践的理解・保育現場の環境構成に触れることを目的とし、認可された保育所にて2週間の実習を行う。 これまでに学んできたことを実践の場で、自らの試みを含めて確認することになるが、自分自身の理解の到達点や保育者としての特性などを見る貴重な機会として捉える。保育士に必要な専門的知識・技能を現場で協調性をもって活用できるように学ぶ。						
学修内容			到達目標			
① 保育所の役割や機能を具体的に理解する。 ② 観察や子どもとの関わりを通して子ども理解を深める。 ③ 既習の教科の内容を踏まえ、子どもの保育及び保護者への支援について学ぶ。 ④ 保育の計画、実践、観察、記録及び自己評価などを具体的に学ぶ。 ⑤ 保育士の業務内容や職業倫理について学ぶ。			① 保育所の役割や機能を具体的に理解できる。 ② 子どもへの理解が深まる。 ③ 子どもの保育及び保護者への支援について学ぶ。 ④ 保育の計画、実践、観察、記録及び自己評価などについて具体的に理解できる。 ⑤ 保育士の業務内容や職業倫理について具体的に理解できる。			
学生に発揮させる社会人基礎力の能力要素		学生に求める社会人基礎力の能力要素の具体的行動事例				
前に踏み出す力	主体性	保育実習指導 I や前期、後期での学びをすべて活かし課題意識を持って取り組む。				
	働きかけ力					
	実行力	自分で目標を決め、確実に行動する。				
考え抜く力	課題発見力	保育の現場をありのまま把握して、自己課題を見つける。				
	計画力					
	創造力	保育者の行動を積極的観察し保育技術、知識の習得し実践に活用する。				
チームで働く力	発信力	修得して技術を積極的に子どもに伝える				
	傾聴力	保育者や子ども、保護者が話しやすい雰囲気を作り先入観を持たずに聞く。				
	柔軟性					
	状況把握力					
	規律性	決められたルールや約束を認識しそれに従って行動する。				
	ストレスコントロール力					
テキスト及び参考文献						
テキスト:「学外実習の手引き」 参考文献:「教育・保育実習安心ガイド」・「教育・保育実習実技ガイド」ひかりのくに「保育所保育指針解説書」厚生労働省						
他科目との関連、資格との関連						
他科目との関連:教育実習指導 I、教育実習 I、保育実習指導 I、その他保育内容 5 領域等 資格との関連:なし						
学修上の助言			受講生とのルール			
・講義や演習などで学んだことを確認する。 ・季節の歌・絵本・手遊び等レパトリーを増やし、実践できるように繰り返し演習しておく。			・遅刻欠席した場合は連絡をする。 ・提出物は期限を守り、指導者の話を素直に聞く。 ・健康管理に注意し万全な態勢で臨む。 ・保育者の役割、働き、動きを積極的に学び実践してくる。 ・問題意識を持ち、疑問やわからないことなど積極的に質問するなどして保育を深める。 ・絵本読み、手遊びなど機会を見逃さず意欲的に実践する			

【評価方法】

評価方法	評価の割合	到達目標		各評価方法、評価にあたって重視する観点、評価についてのコメント
筆記試験				
小テスト				
レポート	5	①	✓	・事前指導報告書類に必要項目がすべて記載されている。特に学びたいことが明確に示されている。5点
		②	✓	
		③		
		④		
		⑤	✓	
成果発表 (口頭・実技)	5	①	✓	・実習に対しての振り返りや次の課題など事前に記入し、実習反省会に参加し実習での成果を発表する。5点 (実習を振り返り自己反省や学び、今後の課題について理論的に発表できる)
		②	✓	
		③	✓	
		④	✓	
		⑤	✓	
作品				
社会人基礎力 (学修態度)	10	①	✓	(主体性) 保育実習指導 I や前期、後期での学びをすべて活かし課題意識を持って取り組む。 (実行力) 自分で目標を決め、確実に行動する。 (課題発見力) 保育の現場をありのまま把握して、自己課題を見つける。 (創造性) 保育者の行動を積極的観察し保育技術、知識の習得し実践に活用できる。 (発信力) 修得して技術を積極的に子どもに伝える (傾聴力) 保育者や子ども、保護者が話しやすい雰囲気を作り先入観を持たずに聞ける。 (規律性) 決められたルールや約束を認識しそれに従って行動できる。 誓約書を常に意識し、それに準じた行動がとれる。
		②	✓	
		③	✓	
		④	✓	
		⑤	✓	
その他	80	①	✓	保育実習先での評価結果 Aは 80 点以上 Bは 70 点以上 Cは 60 点以上 D Oは未実習 0 点
		②	✓	
		③	✓	
		④	✓	
		⑤	✓	
総合評価割合	100			

【到達目標の基準】

到達レベルS(秀)及びA(優)の基準	到達レベルB(良)及びC(可)の基準
園から提出される出席簿・実習記録・評価票を参考に評価する。 S(秀) = 評価内容S A(優) = 評価内容A	園から提出される出席簿・実習記録・評価票を参考に評価する。 B(良) = 評価内容B C(可) = 評価内容C

週	学修内容	授業の実施方法及び フィードバック方法	到達レベル C(可)の基準	予習・復習	時間 (分)	能力 名
1回 /	事前指導報告書提出	演習 学びたいことを読み 上げフィードバック する。	事前訪問を終えたら直ちに、事前 指導報告書を完成し、実習を受 けるにあたっての問題意識を整理 し「実習にあたっての抱負」を作 成のうえ巡回担当に提出、助言を 仰ぐ。	(復習) 事前訪問後に報告 書を作成しておく。	90	主体性 発信力
2回 /	保育実習(観察実習)	学外	実習期間に入って最初のうちは、 観察の上、子どもの様子や保育 の流れを捉えることが中心となる が、積極的に子どもの中に入り、 保育者の考えを尋ね、早めの状 況把握に努める。	(予習) 子どもの発達につ いて把握しておく。 手遊び、パネルシ アターなど子ども の前で実践できるよ うに練習を重ねてお く。 年齢に合わせて絵 本や遊びを準備し ておく。	180	主体性 柔軟性 規律性 状況把握力
3回 /						
4回 / ~ 14回 /	保育実習(参加実習)	学外	様子がわかってきたら、保育者の 指導を受けながら、保育者の補助 的役割進んで果たし、積極的な 実習を心掛ける。	(予習) 子どもの発達につ いて把握しておく。 手遊び、パネルシ アターなど子ども の前で実践できるよ うに練習を重ねてお く。 年齢に合わせて絵 本や遊びを準備し ておく。	540	主体性 働きかけ力 実行力 計画性 創造力 課題発信力 傾聴力 発見力 課題発見力
	保育実習(部分実習)	学外	部分案を立てて、保育者の指導 をとおぎ、案を検討できる。 立案した指導案のイメージを意識 し保育に活かすことができる。	(予習) 計画を練り、シミュ レーションしておく。 (復習) 部分実習の評価を 受けて、反省をま とめておく。また、課 題も見つけておく。	450	主体性 働きかけ力 実行力 計画性 創造力 課題発信力 傾聴力 発見力 課題発見力
15回 /	反省・総括	演習 総括を振り返り実習 をフィードバックす る。	保育実習後、保育をしてみた結 果について評価を受け、反省をま とめる。 保育が上手く出来たかどうこと 以上に、この実習から何を学んだ か明確にする。	(復習) 実習を振り返り総 括を完成しておく。	90	主体性 傾聴力 課題発見力

能力名: 主体性 働きかけ力 実行力 課題発見力 計画力 創造力 発信力 傾聴力 柔軟性 状況把握力 規律性
ストレスコントロール力

平成 30 年度 愛知学泉短期大学シラバス

科目番号	科目名	担当者名	基礎・専門別	単位数	選択・必修別	開講年次・時期
52505	保育実習Ⅱ Childcare Internship Ⅱ	岡田 真智子	専門	2	選択	2年前期
科目の概要						
この学外実習は、保育実習の最後として2週間にわたって行う。この科目は、保育実習Ⅰと同様に、現場実習を通して、保育士の役割、子ども達の動きの実践的理解、保育現場の環境構成に触れることを目的とするが、保育実習Ⅰと異なる点は、実際に指導案を立てて研究保育を行うことを理解する。 これまでに学んできたことを実践の場で、自らの試みを含めて確認することになるが、自分自身の理解の到達点や保育者としての特性などを見る貴重な機会として、位置づける。保育士に必要な専門的知識・技能を現場で協調性をもって柔軟に活用できるように活用できること。						
学修内容			到達目標			
① 既習の教科や保育実習Ⅰの経験を踏まえ、子どもの観察や関わりの視点を明確にする。 ② 保育の計画・実践・観察・記録及び自己評価等について理解する。 ③ 現場実習を通して、保育士の役割、子ども達の動きの実践的理解、保育現場の環境構成について理解する。 ④ 保育士の業務内容や職業倫理について理解する。 ⑤ 保育士としての自己課題を見つける。			① 子どもの観察や関わりの視点を明確にすることで、保育の理解を深めることができる。 ② 保育の計画・実践・観察・記録及び自己評価等について、実際に取り組むことで理解を深めることができる。 ③ 保育士の役割、子ども達の動きの実践的理解、保育現場の環境構成の理解を深めることができる。 ④ 保育士の業務内容や職業倫理についての理解を深めることができる。 ⑤ 保育士としての自己課題を明確化することができる。			
学生に発揮させる社会人基礎力の能力要素		学生に求める社会人基礎力の能力要素の具体的行動事例				
前に踏み出す力	主体性	実習に必要な知識について、教科書・文献を使って自己学修することができる。技術の習得のために自ら練習をすることができる。				
	働きかけ力					
	実行力	自分で立てた目標を達成することが難しそうであれば、あきらめずに原因を考え、目標が達成できるよう行動することができる。				
考え抜く力	課題発見力	現状を把握し分析することで課題を発見することができる。				
	計画力	課題に対して計画を立てながら実践することができる。				
	創造力	授業で修得した技術を応用して、課題に取り組むことができる。				
チームで働く力	発信力	どのように話したら園児に伝わるか考え、話し方を工夫することができる。整理した実習内容を的確な文章で表現することができる。				
	傾聴力	うなずきや相槌をしながら話を聞くことができる。大事なことはメモを取りながら聞くことができる。				
	柔軟性					
	状況把握力	自分が実習をすることで周囲にどんな影響を及ぼすかを考え、最良の結果が出せるよう取り組むことができる。				
	規律性	指示やルールがわからない時は、自分の判断で行動せず必ず確認をすることができる。提出物の期限を守ることができる。				
	ストレスコントロール力					
テキスト及び参考文献						
テキスト:「学外実習の手引き」 愛知学泉短期大学幼児教育学科 編集発行 参考文献:「教育・保育実習安心ガイド」・「教育・保育実習実技ガイド」ひかりのくに「保育所保育指針解説書」厚生労働省						
他科目との関連、資格との関連						
科目との関連 : 保育実習Ⅰ、保育実習指導Ⅰ・Ⅱ、教育実習事前事後指導Ⅰ・Ⅱ、教育実習Ⅰ、施設実習指導 資格との関連 : 保育士、レクリエーションインストラクター						
学修上の助言			受講生とのルール			
・今までに学んだことや実習で体験したことを振り返り、実習に臨むこと。 ・日頃より絵本、季節の歌、手遊び等進んで取り組み保育に積極的に参加すること。			・実習を行うにあたって、実習先の希望等、多くの書類の提出を求めるがその際の提出期限は厳守すること。 ・実習に先立って行う事前指導をきちんと受講しない学生はこの科目が受講できないことになるので注意すること。			

【評価方法】

評価方法	評価の割合	到達目標	各評価方法、評価にあたって重視する観点、評価についてのコメント	
筆記試験				
小テスト				
レポート				
成果発表 (口頭・実技)				
作品				
社会人基礎力 (学修態度)	10	①	✓	(主体性) ・実習に必要な知識について、教科書・文献を使って自己学修することができる。 ・技術習得のため指示がなくても自ら練習することができる。 (実行力) ・自分で立てた目標を達成することが難しそうであれば、あきらめずに原因を考え、目標が達成できるよう行動することができる。 (課題発見力) ・現状を把握し分析することで課題を発見することができる。 (計画力) ・課題に対して計画を立てながら実践することができる。 (創造力) ・授業で修得した技術を応用して、課題に取り組むことができる。 (発信力) ・どのように話したら園児に伝わるか考え、話し方を工夫することができる。 ・整理した実習内容を的確な文章で表現することができる。 (傾聴力) ・うなずきや相槌をしながら話を聞くことができる。 ・大事なことはメモを取りながら聞くことができる。 (状況把握力) ・自分が実習をすることで周囲にどんな影響を及ぼすかを考え、最良の結果が出せるよう取り組むことができる。 (規律性) ・学修意欲欠如、遅刻、無断欠席、提出物の未提出など、授業が円滑に進行するようルールを守ることができる。
		②	✓	
		③	✓	
		④	✓	
		⑤	✓	
その他	90	①	✓	・園から提出される出席簿、実習記録、評価票を参考に評価する。
		②	✓	
		③	✓	
		④	✓	
		⑤	✓	
総合評価 割合	100			

【到達目標の基準】

到達レベルS(秀)及びA(優)の基準	到達レベルB(良)及びC(可)の基準
・園から提出される出席簿・実習記・、評価票・実習反省会を参考に評価する。 S(秀)＝評価内容S A(優)＝評価内容A	・園から提出される出席簿・実習記録・評価票・反省会を参考に評価する。 B(良)＝評価内容B C(可)＝評価内容C

週	学修内容	授業の実施方法及び フィードバック方法	到達レベル C(可)の基準	予習・復習	時間 (分)	能力 名
1週 / /	「学外実習の手引き」をよく読み、事前指導について学ぶ。	演習	実習に伴う事前の手続き、 掲示、呼び出し、直接指導、 細菌検査の提出、事後のレポートや 実習記録の提出等々について各自、 責任と自覚をもって取り組むことができる。	(予習) 「学外実習の手引き」をよく読み、 確認をすること。	90	主体性 傾聴力
2～ 14週 / /	「学外実習の手引き」をよく読み、 事前指導について学ぶ。 見学実習を行う。	演習 学外	実習の受け入れ園と連絡を取り、 日時を定め、事前に訪問の上、 指導を受けることができる。 実習の手引きを参考にし、 必要な指導を受け、園の概要を 観察し、記録することができる。 この段階で実習を受けるに 当たっての問題意識を整理して、 「実習で学びたいこと」として まとめることができる。	(予習) 事前指導の再確認をすること。 「実習事前指導報告書」と 「実習で学びたいこと」を記入し、 巡回教員に提出すること。 (復習) 保育記録は、当日中に記入し、 翌日には必ず園に提出すること。	360	主体性 計画力 発信力 規律性
2～ 14週 / /	観察実習を行う。	学外	実習期間に入って最初のうちは、 観察しながら子どもの様子や 保育の流れを捉えることができる。 積極的に子どもの中に入り、 保育者の考えを尋ね、早めの 状況把握することができる。	(復習) 保育記録は、当日中に記入し、 翌日には必ず園に提出すること。	270	主体性 実行力 規律性 状況把握力

能力名: 主体性 働きかけ力 実行力 課題発見力 計画力 創造力 発信力 傾聴力 柔軟性 状況把握力 規律性
ストレスコントロール力

週	学修内容	授業の実施方法及び フィードバック方法	到達レベル C(可)の基準	予習・復習	時間 (分)	能力名
2～ 14週 / /	参加実習を行う。	学外	様子がわかってきたら、保育者の指導を受けながら、保育者の補助的役割をすることができる。 自らの積極的な実習を心掛け、子どもとの関わり方を模索しながら実習をすることができる。	(予習) 絵本・手遊び・季節の歌等の練習をしておくこと。 指導実習の指導案を立案して、早めに担当の先生のご指導をおおぐこと。 指導実習にあわてないように、必要なものの準備や練習をしておくこと。	270	主体性 実行力 規律性 状況把握力
2～ 14週 / /	指導実習を行う。	学外	指導案(部分案と日案、またはどちらか)を立てて、保育者の指導をおおぎ、案を検討することができる。 立案した指導案のイメージを自分の中に持って保育に活かすことができる。	(復習) 指導実習の評価を受けて、反省をまとめておくこと。また、課題も見つけておくこと。	270	主体性 実行力 規律性 状況把握力
15週 / /	反省・総括をする。	学外 今までの実習をフィードバックし総括にまとめる。	実際に保育してみた結果について評価を受け、反省をまとめることができる。 (この時に大事なことは、自分の学びたいことについてどうであったか、またこの実習から何を学んだかである)	(復習) ・記録をまとめ、園に提出すること。	90	主体性 発信力 傾聴力 課題発見力

能力名: 主体性 働きかけ力 実行力 課題発見力 計画力 創造力 発信力 傾聴力 柔軟性 状況把握力 規律性
ストレスコントロール力